



## 東京部会(第116回)

日時: 2020年5月9日(土) 14:00 - 16:00

場所: Zoomによるウェブ会議

参加者: 19名参加

### 【内容要旨】

・4月の115回に続き、今月の部会もウェブ上の会議となった。3本の報告・討論と北海道や中国、カナダからの参加者も含めた情報交換が行われた。

(1) 金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)より「生徒のいない教室でどう授業をつくるのか」の報告が行われた。

・これはネットワークメルマガ5月号の「授業のヒント」に掲載されたもので、オンライン授業をやらざるをえなくなった状況でどのような授業ができるのかの試案である。

・オンライン授業では、4つの道(音声型、映像型、双方向型、自習型)があるとして、そのなかの、音声入りパワーポイントによるラジオ講座的音声型授業が提案された。

・テーマは、「マスクはどこに?」という現在進行形の話題を取り上げ、なぜお店にマスクがないのかを考えさせる内容で、新聞記事や写真を提示して、生徒に、なぜマスクが売られていないのかその理由を思いつくま10個あげさせ、その上で、要因を7つに分類し、それをレーダーチャートに作成させ、そこから考察できるものを読み取らせるという流れの授業である。

・また、この種のオンライン授業を作る際のポイント(10分程度、タイムリーな問題、大きな問いを細分化するなど)も提示された。

・質疑では、レーダーチャートの作り方などの教材作成の技術的問題、この授業の落としどころをどこに置くのか、カリキュラムのどこに位置付けるのか、この教材で生徒に何を教えるのか、7つの要因でよいのか、生徒の課題回収の方法や結果の提示方法などの疑問や回答が行われた。

・金子先生からは、あくまで導入であり、ここから市場の問題や生産、流通、政治の問題などに広げることを想定しているとの回答があった。

・篠原代表からは生産に関する教科書の記述の不十分さや、不足している商品(マスクと消毒スプレー)でも製造過程の違いがあることに注目することが指摘された。また、荒渡良先生(同志社大学)からはマスクの買い占め転売などの問題まで考えさせると良いのではという提案もされた。

(2) 山崎辰也先生(北海道北見北斗高等学校)から、「少数民族(アイヌ)をめぐる問題《たたき台①》」提案があった。

・これは、今年10月に予定されているNIEセミナーでの実践授業のために作成したものである。

・授業展開としては、教科書のアイヌ民族に対する差別問題の記述からはじまり、1980年代におきた差別事件やアイヌ生徒の作文の紹介、2000年代になっての差別解消の取組みの例を紹介した上で、なぜアイヌは貧しいのかという問いを立て、歴史的な背景を紹介、さらに現代の状況を提示するとい流れである。

・そのうえで、経済的な貧しさを改善するにはどうすればよいかという問いを、センのケイパビリティアプローチで考えさせるという展開を想定したものである。

・質疑では、学校に当事者がいるのか、生徒はアイヌ差別をどう考えているのか、この授業の落としどころはどこで



生徒に何を考えさせたいか、アイヌ新法から人権学習で扱うケースが多いのではという指摘や、カナダでのイヌイトやアメリカのネイティブアメリカンの問題などと比較させると良いのではという示唆、センを扱うならロールズも視野に入れたらという提案があった。

- ・山崎先生からは、今の学校では当事者はいないが、まずは知ることから始めなければいけないという回答と、まだラフスケッチなので指摘を踏まえてこれからさらに練り上げたいと回答があった。
- ・川瀬雅之先生(札幌市立北翔養護学校)からは、北海道の開拓の歴史のなかの人権問題、民族共生が現在も課題となっている事例をあげられて、山崎先生の教材開発の背景の紹介があった。

(3) 大塚雅之先生(大阪府立三国丘高等学校)から「公民分野の「情報社会」に関する単元開発」の報告と討論が行われた。

- ・これは、先日の大阪部会で報告された内容で、東京でも検討することになった実践事例である。
- ・思考力を問う新テストの問題分析から、求められている課題を踏まえた評価問題を作成し、それから逆に授業を構成するというものである。テーマは巨大IT企業問題で、4次構成である。
- ・第1次で巨大IT企業と競争政策について学び、第2次でフェイクニュースと表現の自由をとりあげ、第3次でジグソー法をつかった討議を行い、第4次でそれを踏まえた熟議を行うという流れの授業で、報告では生徒のテスト問題の正答率、ジグソーや熟議を行わなかったクラスとの比較なども紹介された。
- ・質疑、討論では、評価問題から逆に授業構想することへの高い評価があり、ルーブリックの先をゆく授業案ではという評価もあった。生徒のGAFAsへの関心や討議の過程への教員の関わり、資料選択の基準や留意点はなんだったかなどの質問がでた。
- ・大塚先生からは、生徒はリクナビ問題のような個人情報に関心が強いこと、GAFAsに関しては当初は肯定的な生徒が多かったが熟議を通して問題点が理解できたのではないかと、資料はひろく探したが、政策に関してはトレードオフになるようなものに配慮したなどの回答があった。
- ・授業計画の部分を詳細に紹介してネットワークメンバーに共有してもらいたいという要望があり、検討するとの回答があった。

(4) 参加者の情報交換が行われた。

- ・一つは、荒渡良先生から、コロナ感染の疫学モデルをつかった大学生向けのシミュレーションを作成したので、可能であれば高校の授業(公民でなく理科や数学でも)で利用して欲しいとの報告があった。
- ・小谷先生(青島日本人学校)から、中国でのコロナ感染の様子や現在の生活、学校の様子などが報告された。
- ・休校下の学校や生徒との連絡方法、関係の持ち方など切実な学校の現状の報告や、情報機器が整備されている私立学校の様子などの情報が交換された。

(5) 全体として

- ・海外からの参加もあり、ネット会議は空間の制約を超えることができることが実感される会議となった。
- ・事前に報告資料が送付されることで、限られた時間で活発な意見交換ができるというメリットが感じられる会議となった。(記録、文責:新井)

<input checked="" type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
---	-----------------------------	--	---	------------------------------------



経済教育ネットワーク  
Network for Economic Education



次回開催予定：2020年6月20日(土)14時00分～16時00分 ネット会議

議題：教材の提案と検討